



©2020 The Phone of the Wind Film Partners

Voices in the Wind

風の電話

2020, 139 min, English Subtitles

Director: SUWA Nobuhiro

Cast: Serena Motola, NISHIJIMA Hidetoshi, NISHIDA Toshiyuki, MIURA Tomokazu, WATANABE Makiko

ICA screening information:

Fri	A Man	6:10pm
2 Feb	Hand	8:50pm
Sat	Twilight Cinema	1:30pm
3 Feb	Blues	3:30pm
	Sabakan	5:30pm
	Undercurrent	8:20pm
	From the End of World	
Sun	Voices in the Wind	1:20pm
4 Feb	The Snow Flurry	4:00pm
	Ice Cream Fever	5:40pm
	The Inerasable	8:30pm
Tue	Ripples	6:15pm
6 Feb	Hand (Repeat)	8:40pm
Wed	The Lump in My Heart	6:15pm
7 Feb	Thousand and One Nights	8:15pm
Thu	The Lump in My Heart (Repeat)	4:00pm
8 Feb	Hoarder On The Border	6:00pm
	From the End of World (Repeat)	8:10pm
Fri	Do Unto Others	6:10pm
9 Feb	Mondays: See You 'This' Week!	9:00pm
Sat	Hit Me Anyone One More Time!	1:00pm
10 Feb	The Fish Tale	3:30pm
	Winnie	6:10pm
	Shadow of Fire	8:45pm
Sun	The Zen Diary	1:00pm
11 Feb	YOKO	3:20pm
	Lonely Castle in the Mirror	5:50pm
	Egoist	8:15pm

私と震災、震災後の子どもたち

2011年3月11日

「大津波警報です。高台に避難してください」

聞こえていた。私はちゃんと聞こえていたし、その緊迫した放送を覚えている。市内全域に響いていた。なのに、私は「高台はどこかな」などと呑気に考えていた。坂道を降りながら。両親の安否確認の方が大事、などと思っていた。生きているのは、運だ。(映画のセリフは私のことだ)

3月15日未明

義母が亡くなった。癌だった。葬儀社にまったく連絡が取れなかった。夜明け前、どうしたらいいのかわからず、病院近くの葬儀屋に飛び込んだ。声をかけたが、返事がない。電気はついているので中に入って人を探した。2階に上がると広い部屋にずらりとご遺体が並んでいた。みな白い布をかぶって。静かにびっしりと並んでいた。ここは被災地だった。

3月下旬

セーブ・ザ・チルドレンが開設した「子ども広場」のスタッフになった。避難所にいる子どもたちが「子どもらしい時間がもてること」を保証する場所だ。避難所は静かだ。声を出してはいけないと言われたかのように。呼吸の音も聞こえるようだった。囁くような「見つけた?」「いや、まだ。そっちは?」「実は昨日見つけた」という声が聞こえた。

子ども広場は、避難所の一角の教室や中庭の隅で「子どもが声を出していい」「なんの遊びをしてもいい」場所だ。1日に2時間くらいだったろうか。少しずつ子どもが集まるようになった。

お花畑の絵を描く子。滑り台で遊ぶ子。鬼ごっこ。だんだん子ども同士が仲良くなって、ある日「津波ごっこ」が始まった。教室の隅にあったブルーシートで遊び始めたのがきっかけだった。スタッフは戸惑った。実際に家を流された子どもが「津波だぞー、わー」と遊ぶのだ。スタッフは見守りつつ、最後には「津波よ、このダンスで静まってくれー」ととびきり変な動きをした。この「津波ごっこ」は子どもの自己治療遊びであると知ったのは、後の話だ。

2014年(3年後)

避難所は解消され、プレハブの仮設住宅に被災者は移られて行った。その後、ダンスのワークショップの依頼を受けて石巻の仮設住宅へ行ったことがある。集会所に入らず、周りでうろうろしている中学生たちがいたので、「入らない?」と声をかけた。すると「俺たち、入っちゃいけないって言われてるんだ」「なんで?」「前にものを壊したから」。そんな会話をしているうちに、集会所の管理をしているふうなおじさんが「オメタチ、ここはダメだって言ったべ!」と怒鳴り込んできた。中学生たちはサッとどこかへ行ってしまった。

ワークショップの最後に何人かのお母さんたちが集まって話をしてくれた。中に中学生たちのリーダー格のお母さんがいた。「あの子は震災の時5年生で、津波に流さ

Dates & Venues

2 – 11 February
Institute of
Contemporary Arts
(ICA), London

2 February – 30 March
Phoenix, Leicester

3 – 28 February
Watershed, Bristol

3 – 29 February
Aberystwyth Arts
Centre, Aberystwyth

3 February – 10 March
Warwick Arts
Centre, Coventry

3 February – 11 March
Chichester Cinema at
New Park, Chichester

3 February – 23 March
Brewery Arts
Cinema, Kendal

3 February – 24 March
Films will be screened
at the Frankopan Hall,
Jesus College and
Howard Theatre,
Downing College

3 February – 30 March
Firstsite, Colchester

3 February – 30 March
Queen's Film
Theatre, Belfast

4 – 27 February
Showroom Cinema,
Sheffield

9 February – 17 March
QUAD, Derby

12 February – 6 March
HOME, Manchester

12 February – 18 March
Eden Court, Inverness

12 February – 31 March
Tyneside Cinema,
Newcastle

Screening dates vary

16 – 21 February
Chapter, Cardiff

17 February –
16 March
Dundee Contemporary
Arts, Dundee

18 February – 12 March
The Dukes, Lancaster

21 February – 27 March
Cameo Picturehouse,
Edinburgh

28 February – 14 March
The Phoenix Cinema,
Orkney

29 February – 28 March
City Screen Picturehouse,
York

2 – 27 March
Exeter Phoenix, Exeter

7 – 28 March
Plymouth Arts Cinema,
Plymouth

3 – 14 March
Depot, Lewes

4 – 25 March
Cinema City
Picturehouse, Norwich

6 – 27 March
The Ultimate Picture
Palace, Oxford

7 – 28 March
Picturehouse @ FACT,
Liverpool

13 – 30 March

Storyhouse, Chester

15 – 20 March

Broadway, Nottingham

22 – 28 March

Midlands Arts Centre,
Birmingham

れていく自動車を校舎から見てたんだ。それ以来、俺は何もできない、っていうのが口癖で。前は積極的な子だったのに」。彼の話の聞きかたが違った。私こそ、何もできない。

大人は子どもに期待する。「被災した子どもは黒い混沌とした絵を描くのではないか」「被災した子どもは、健気に頑張るのではないか」大人の期待に応えようとする子どもも少なくない。が、本来子どもは自分で試行錯誤する。自分のやり方で。危なっかしくても。

2024年1月1日

また日本で大きな地震があった。能登半島地震。マグニチュード7.6。原稿を書き終えようとしている今は1月4日。まだ救助を待っている人が大勢いるようだ。祈るばかりです。助かってください。

西海石みかさ

宮城県塩竈市在住。JICA ボランティア派遣（ホンジュラス/障害児教育）から帰国直後、東日本大震災発生。塩釜市内にて被災。交通網の遮断などで約半月は塩釜市から出られず。その間、塩釜市内に一ヶ所開設された福祉避難所でボランティアを行った。その後、セーブ・ザ・チルドレンの子ども広場スタッフ（石巻市内や東松島市内の避難所）、ARCT（アトリバイバルコネクション東北）で2次避難所や福祉施設での身体ワークショップなど。イスラエルのアートセラピストたちにアートによる支援の方法を学び、自身の身体ワークショップに生かす。2015年ネパール地震、2016年熊本地震の際には、現地で支援団体と共に調査、その後子どもたちへの身体ワークショップを実施した。

Major Supporter



Sponsors in Kind



Clearspring Pentel

Cultural Partners



Copyright belongs to the Japan Foundation. You may not copy, reproduce, distribute, modify, or distribute any part in any form without permission.